

# 岩倉市のごみ収集量と資源回収量の状況について

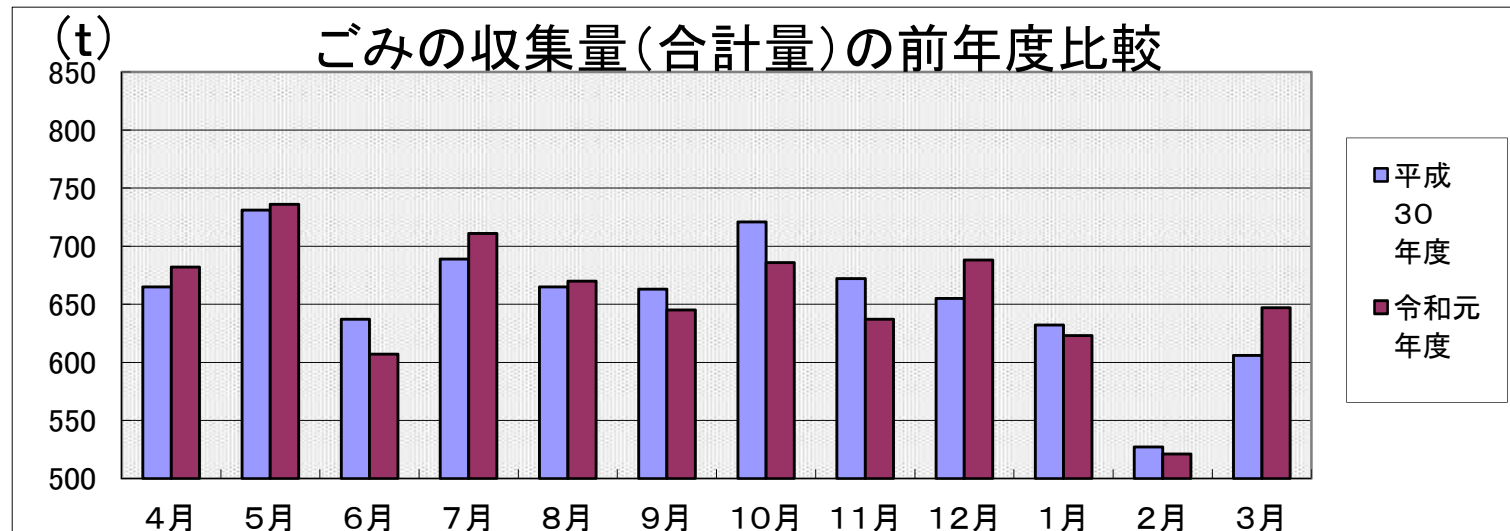
資料2

## 1 ごみ収集量の前年度比較

(単位:t)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 30 年度	燃やすごみ	602	648	576	632	599	598	640	604	581	570	474	544	7,068
	破碎ごみ	63	83	61	57	66	65	81	68	74	62	53	62	795
	合計	665	731	637	689	665	663	721	672	655	632	527	606	7,863
令和 元 年度	燃やすごみ	620	651	545	647	611	586	612	571	615	558	469	585	7,070
	破碎ごみ	62	85	62	64	59	59	74	66	73	65	52	62	783
	合計	682	736	607	711	670	645	686	637	688	623	521	647	7,853
30年 度と 元 年度 の 比較	燃やすごみ	18	3	▲ 31	15	12	▲ 12	▲ 28	▲ 33	34	▲ 12	▲ 5	41	2
	破碎ごみ	▲ 1	2	1	7	▲ 7	▲ 6	▲ 7	▲ 2	▲ 1	3	▲ 1	0	▲ 12
	合計	17	5	▲ 30	22	5	▲ 18	▲ 35	▲ 35	33	▲ 9	▲ 6	41	▲ 10

令和元年度のごみ収集量は前年度比で10t(約0.1%)の減となりました。「第5次岩倉市一般廃棄物処理計画実施計画」で見込んだ計画値7,757tには届きませんでした。収集量自体は減少傾向にあり、市民のごみ減量に対する意識は年々高まっているものと考えられます。また、ごみ減量には資源化を図ることも大切ですが、資源の回収量が減少傾向にあることから、市民の間で廃棄物の排出を抑制しようという意識が浸透し、かつ行動もなされていることが読み取れます。循環型社会の形成を推進するうえで、廃棄物の排出抑制は資源の再生利用以上に大切であり、このような傾向がこの先も継続されていくことが重要です。今後も廃棄物の排出抑制についての啓発や、リサイクルによるごみの資源化などを市民に働きかけていきます。

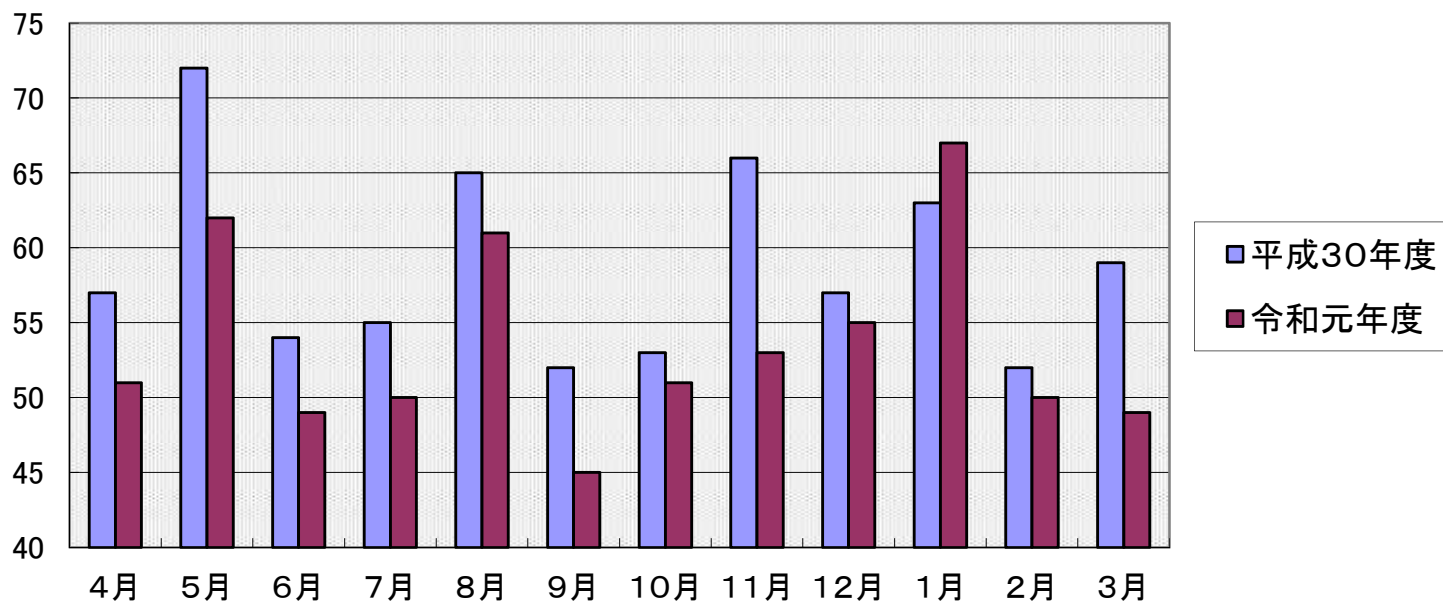


## 2 プラスチック製容器包装資源化量の前年度比較

(単位:t)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	57	72	54	55	65	52	53	66	57	63	52	59	705
令和元年度	51	62	49	50	61	45	51	53	55	67	50	49	643
30年度と元年度の比較	▲ 6	▲ 10	▲ 5	▲ 5	▲ 4	▲ 7	▲ 2	▲ 13	▲ 2	4	▲ 2	▲ 10	▲ 62

(t) プラスチック製容器包装資源化量の前年度比較



令和元年度のプラスチック製容器包装資源化量は前年度比で62t(約8.8%)の減となりました。「第5次岩倉市一般廃棄物処理計画実施計画」で見込んだ計画値705tとの比較では62tのマイナスとなり、平成30年度に引き続き収集量が減少しています。市民のプラスチック製容器包装資源への理解はすでに定着していると考えられますが、一方で市民の間で廃棄物の排出自体を抑制しようとする意識が浸透していることが影響していると考えられます。引き続き、広報等を通じ広く制度の市民周知を行い、ペットボトル等を混ぜないなど、分別意識の向上につながるよう努めていきます。

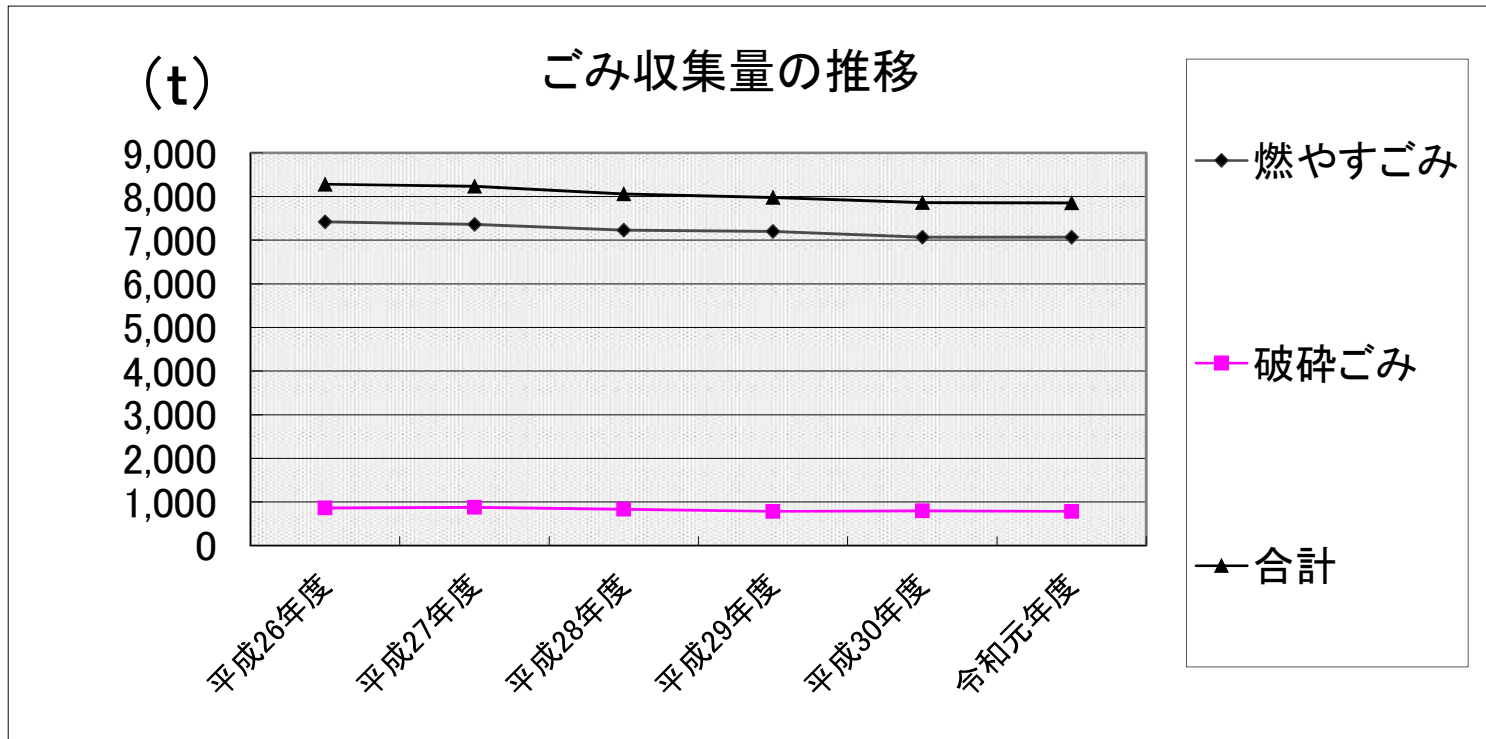
### 3 過去からの推移

(1) 平成26年度からのごみ収集量の推移

(単位:t) 【参考】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平成13年度
燃やすごみ	7,421	7,362	7,230	7,199	7,068	7,070	10,644
破碎ごみ	862	876	833	783	795	783	2,748
合計	8,283	8,238	8,063	7,982	7,863	7,853	13,392

岩倉市のごみ量は人口増加とともに増加し、平成13年度最大値13,392tにまでなりましたが、それ以降は古紙と古着の日、プラスチック製容器包装資源の回収の実施、また3Rの周知啓発による市民意識の向上により減少し続けています。

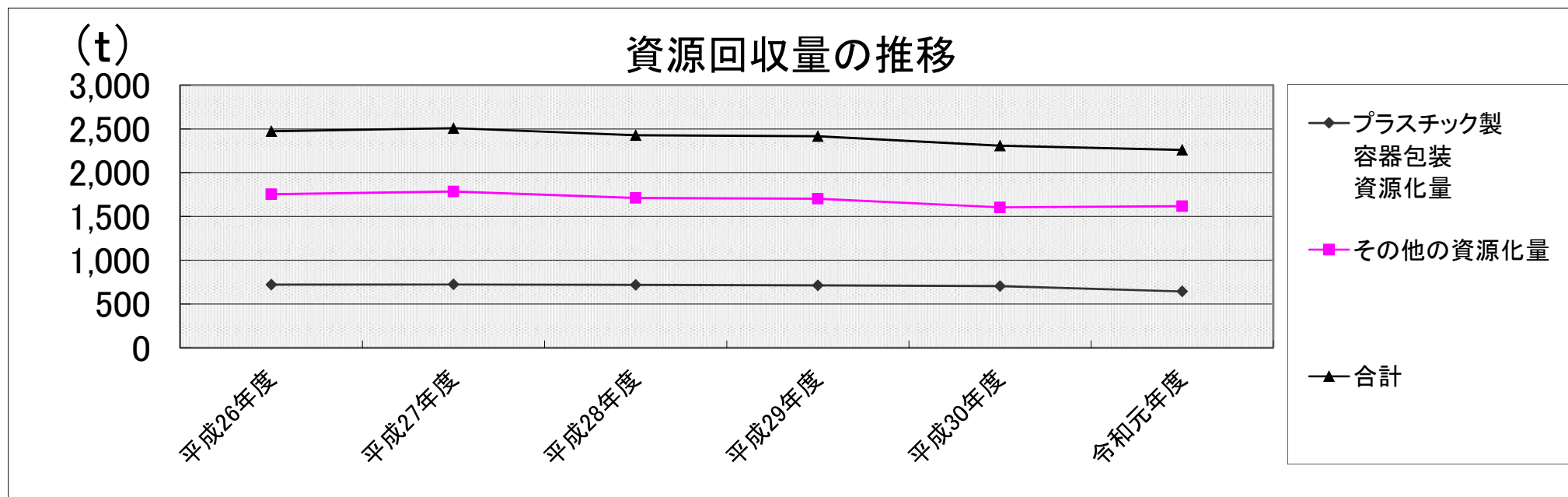


## (2) 平成26年度からの資源回収量、資源化率の推移

### ア 資源回収量の推移

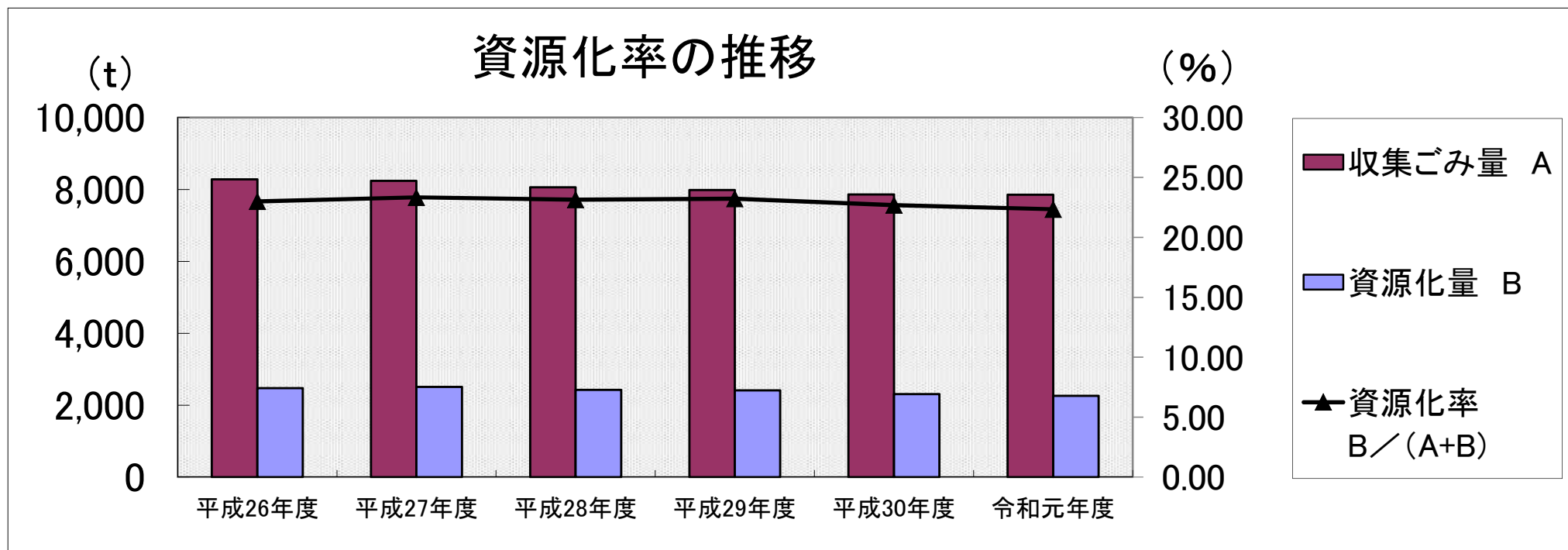
(単位:t)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
プラスチック製 容器包装 資源化量	720	723	719	713	705	643
その他の資源化量	1,754	1,785	1,710	1,702	1,604	1,617
合計	2,474	2,508	2,429	2,415	2,309	2,260



イ 資源化率の推移 (単位:収集ごみ量、資源化量はt、資源化率は%)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
収集ごみ量 A	8,283	8,238	8,063	7,982	7,863	7,853
資源化量 B	2,474	2,508	2,429	2,415	2,309	2,260
資源化率 B/(A+B)	23.00	23.34	23.15	23.23	22.70	22.35



資源化量・資源化率については、全体として減少傾向となっています。これは、メディアの発達による紙媒体の減少、企業努力による容器類の軽量化、さらに民間事業者による資源回収の増加などが影響していると考えられますが、民間事業者が回収している資源の量から推測すると市民のリサイクルに対する意識はある程度高いレベルを保持していると考えられます。市としては引き続き、e-ライフプラザや日曜資源回収の利用促進を図っていくとともに、資源回収団体への助成金制度の周知や雑がみ資源化をより一層推進するなどして、ごみ減量化・資源化を図っていきます。